石巻専修大学

●「石巻専修大学」ホームページ● https://www.senshu-u.ac.jp/ishinomaki/

石巻専修大学
広報係
〒986-8580
宮城県石巻市
南境新水戸1番地
☎0225-22-7717（直）

本年4月、創立30年を迎えました

私立大学研究ブランディング事業

水産資源養殖の課題が明らかに

シンポで成果報告

2016年度私立大学研究ブランディング事業として、石巻専修大学が取り組んできた研究プロジェクト「震災復興から地域資源の新結合による産業創出へ―草葉起源による内水面養殖業の創出―」（プロジェクトリーダー＝高崎みつる理工学部教授）の成果を報告するシンポジウムが11月8日、本学で開催された。「創立30周年記念事業」の一環として行われ、学生、教職員、関係者らが聴講。これまでの開発、実験、調査の成果が発表され、今後の展望が語られた。

プロジェクトは、東日本大震災後の耕作放棄地で育てた草葉を用い、内陸部に設けた水槽で水産資源を養殖する方法を研究。システムを開発し、養殖方法を普及させることで新たな産業の創出と地域振興を目指してきた。

研究成果発表会では、高崎教授が内水面養殖システム、庄子真岐経営学部准教授が流通マーケティング、柳明人間学部教授が研修システムについて報告した。

プロジェクトの根幹となる内水面養殖システムの構築に取り組んだ高崎教授は、研究の成果として、水質管理や浄化といったシステムの開発が最終段階に入ったと報告。「廃水処理、餌料開発、魚の健康管理など、内陸部で水産資源を養殖するための課題が明らかになった。草葉を餌料に変換し、循環型養殖システムで魚介類を生産したいという目的にはいくつかの大きな壁があったが、これまでの研究で大きな鍵が見えてきた」と総括し、「生態系だけでなく、水の物理特性を利用する必要がある。餌料生産を第一主題に、システム開発を第二主題として、今後も研究を進めていく」と話した。

発表会に先立って行われた特別講演には、宮城県水産高校の生徒120人が出席した。元漁師、元水産庁職員で、現在はウエカツ水産代表取締役、東京海洋大学客員教授の上田勝彦氏は「東北の魚で考えるブランドとは何か」をテーマに講演。

鶴岡市立加茂水族館元館長で現在はシニアアドバイザーを務める村上龍男氏は、閉館寸前だった同水族館をギネス認定の「世界一のクラゲ水族館」にまで育て上げた体験を語った。

多くの聴講者が訪れた上田氏による特別講演

ゲストライブで盛り上がる観客たち

研究成果を報告する高崎教授

2018石鳳祭

秋晴れのキャンパス 大いににぎわう

石巻の秋を彩る「2018石鳳祭」が10月13、14の両日に開催された。2日間とも好天に恵まれ、多くの学生、卒業生、市民らが来場し、キャンパスは大いににぎわった。

創立30年を迎えた石巻専修大学の歴史をつないでいくという意味を込め、今年のメインテーマは「CONNECT～つなぐ～」。メインステージではダンス愛好会や合唱部がパフォーマンスを披露したほか、ゲストライブも実施。教室では石鳳祭実行委員会が企画したお化け屋敷、サークルなどによる企画展示が行われた。屋外は学生による模擬店、地場産品試食などで盛況だった。

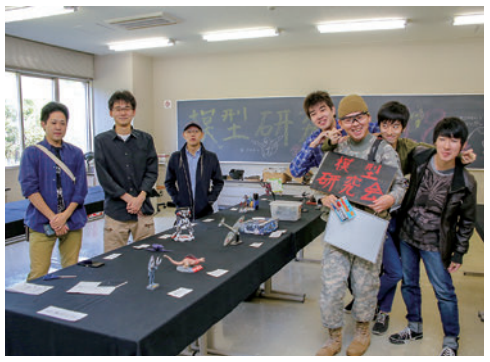
実行委員長の吉田ひよりさん（理工3・宮城県白石高）は「実行委員会の仲間に支えられ、最高の石鳳祭を開催することができた」と笑顔で話した。

◇

石鳳祭の開催に合わせ、キャンパス内では「創立30周年記念事業」としてさまざまな催しが実施された。

13日には育友会協力企画の牧田明久氏（楽天イーグルスアカデミーコーチ）による特別講演会が開かれた。育友会支部懇談会（石巻会場）の参加者らが聴講するなか、牧田氏は自身の体験談を交え、「信頼」について語った。

ほかにも電子工作体験などがあり、図書館では「テイラー文庫」のパネル展が開かれた。


作品を展示した模型研究会

模擬店も盛況

亀山市長（右）から表彰状を受け取る佐藤さん

いしのまき政策コンテスト

人間文化学科チーム 最優秀賞受賞

高校生や大学生が石巻市の将来像を提案する「いしのまき政策コンテスト」（石巻市、石巻青年会議所主催）の発表会が10月21日、イオンモール石巻で開催された。8チームが政策とその効果、予算などを亀山紘市長ら5人の審査員にプレゼンテーションし、人間学部人間文化学科の「きょうからあすへ」チームが提案した「石巻で今日は何する?」が最優秀賞を受賞した。

メンバーは佐藤香伽さん（3年次・岩手県一関第一高）、遠藤なぎささん（2年次・宮城県石巻西高）、戸田大さん（1年次・宮城県石巻北高）、荒川怜奈さん（1年次・宮城県加美農業高）。

4人は「40代が暮らし、働き、遊ぶ選択ができるまち」を政策ビジョンとして石巻駅前の立町（たちまち）の活性化案を提案。①タクシーの相乗りやバスの路線拡大②フリーランスの移住を促進させる環境づくり③子育て支援のための施設改修――の三つの政策で暮らしやすいまちになると提言した。

リーダーの佐藤さんは「最優秀賞をめざして準備してきた。先生方をはじめ、サポートしてくださった皆さんの期待に応えることができて良かった」と受賞を喜んだ。

提案された政策は市復興政策課が検討を進め、実現の可能性を探っていく。石巻市出身の遠藤さんは「今まで以上に石巻のことを理解したくて参加した。政策が実現し、立町が活性化したらうれしい」と話した。

粘り強く走りぬく

杜の都駅伝

女子競走部が10月28日、仙台市で行われた第36回全日本大学女子駅伝対校選手権大会（6区間、38キロ、参加25校）に出場。2年ぶりとなる〝杜の都駅伝〟で全員が粘り強い走りを見せ、2時間19分56秒の24位でゴールした。

同部の1期生である4年次生にとっては最後の大会。昨年は東北学連選抜で出場し、ただ一人4年連続出場となった川崎美祈さん（人間4・山形県山形城北高）はアンカーを務め、区間19位と力走。川崎さんが「チーム内で競り合って上位を目指してほしい」と後輩に思いを託すと、庄司琴美さん（経営3・宮城県聖和学園高）は「来年はこんな情けない思いをしたくない」と雪辱を誓った。

4年間の思いを胸にゴールテープを切る川崎さん

【出場選手】※敬称略
▽1区＝庄司琴美
▽2区＝樋口亜沙美（経営2・山形県山形城北高）
▽3区＝千葉彩有花（人間1・宮城県常盤木学園高）
▽4区＝丹野稚妃路（経営1・宮城県聖和学園高）
▽5区＝千葉悠里奈（人間4・宮城県常盤木学園高）
▽6区＝川崎美祈

受験相談会2018
11/25 SUN　12/9 SUN
申し込み不要・入場無料
【時間】10:00～13:00
【企画】個別相談コーナー／小論文・面接対策講座／英語対策講座／キャンパスツアー／資料コーナー